

事の結果を物語つてをるからであります。

私は獨逸民族に同情するものであります。故にカイゼル及び獨逸民族に、此の童話を棄てよと勸告するの
であります。その誤れる軍國主義を棄てよと勸告するのであります。

そして、若し彼等が私の勸告を容れるならば、私は彼等に、正義を以て奸智を倒した吾が國のお伽話『猿
蟹合戦』の一篇を贈りたいと思ふのであります。

そして私は三度、呪はれたる獨逸の軍國主義よと叫ぶのであります。

吾が勸告を容るれば、汝の呪は解かるべしと叫ぶのであります。

心の聲

（藤下學生雄辯大會草稿）

三 甲 鈴 木 安 藏

過去五星霜に亘つた世界の大戦亂はあらゆる慘劇と破壊との跡をとめて漸く此地球にフエヤウエルを告
げたのであります。そうして平和の天地は現出致されました。おだかも暴威を逞しうしたる夜半の嵐が自然
界の一切を蹂躪し一切を微塵にした後、遙か彼方東雲の空より燦爛たる朝日のさし昇るが如く今や我々は幸
福に充てる平和の光を仰ぐことが出来ました。

然しながら諸君之が果して永久の平和たり得るでせうか、吾々が鬭争に永別して永遠に平和の道連れたり

得るでせうか。

二十十日の嵐が済んで心地よい秋晴れの日はあるにしても、やがてはチラ／＼と雪降りしきる寒い冬の朝
ある事を思はねばなりません。

諸君靜かに考へて御覽なさい。利害の不一致や人種的偏見や理想の差異感情の齟齬等が全然消滅せぬ限り
如何に現代の教育機關が完備しても宗教が宣傳せられても、到底今後鬭争の絶無を期することは出来ませ
い。況んや人性の奥底に鬭争といふ大きな本能性の潜在して居る限り私は永遠に眞の平和を見ざるべしと叫
ぶに躊躇しないのであります。

葉巻ゆるやかに薫らしながら典雅なる趣味を物語り人類の愛を説く文明的教育を受けた紳士ですらも一旦
鬭争となるや瞬時にして虎や狼に寸分も違はない猛惡殘忍な心となつて劍を握り銃を執り而して血まみれの
鬭争をも敢て辭せないのであります。

噫之が見苦しい人間本能性の暴露であります。さもしい人類野獸性の暴露であります。

國際聯盟等に依つてあるひは將來の世界に於て武器の鬭争の絶無を期する事は必ずしも空想ではないかも
知れませんが、併しながらこの人間の野獸性はよしんば直接に流血を見ぬにしても更に婉曲なる方法により巧
妙なる手段によつて鬭争以上の慘劇を演ずるに違いありません。

かく論じ来りますると我々はパンのために土のために永久に鬭はなければならぬといふことは火を見るよ
りも明な事實であります。若し我々は此鬭争を辭したならば我々は永遠に人生の墓場に埋没されなければな
りません。永久に敗者の悲哀に泣かねばなりません。私は此處に於て鬭争は永遠なりと叫びたいのであ

ります。

斯の如く我今日彼を打たずんば彼明日我をうつべしといふ時代にあたつて一國の民族に何等の定見なく何等の信念なく只一時の平和に安逸の夢を貪つてをるとしたならばどうでせう、其國民の將來こそ甚だ危まざるを得ないではありませんまいか。

しからば果して帝國の現状如何。翻つて戦後に於ける我國民の生活状態を見渡す時に悲しい哉私は其處に何等欽仰すべき一大信念を見出し能はないのであります。嘆はしい哉何等遠大なる希望の囁きを聞く事が出来ないのであります。

そして今や世は滔々として所謂成金を謳歌し物質的肉体的享樂を理想として帝國の使命を忘れ國民的自覺を缺くの状態ではありませんか。

吾々が過去幾千歳に亘る東西歴史のページを繰く時に幾多諸國の興亡が國民的信念の消長によるものであるといふ事實を見出すのであります。

例を引いて御話し致しまするならば古代希臘羅馬支那の衰微は痛切にこれを立證してをります。諸君嘗ては世界文明の源泉であり美術に文藝にその精華を誇つて居た希臘羅馬支那は何故に亡國の悲運に呪はれたのでせうか。

種々の原因もあるでせうが私はこれを國民的信念の缺乏に依るものであると断定したのであります。彼等希臘羅馬支那の國民は文化にこそ燦然たる光を放つて居りましたが内に國民的信念の確立するものがなかつたばかりに今や空しく山河亡び跡訪ふ遊子行客をして徒らに弔滅の涙に袖をしぼらしむるに過ぎない

のであります。

又今度の大戦争に於てあの微々たるベルギーがあれまでに奮闘したのは蓋しベルギー國民の間に磅礴せる國民的信念の力に依るのではありますまいか。

私は更に之を個人の間引用して考へて見たいのであります。

古代希臘の大聖ソクラテスが彼獨特の大雄辯を以て社會覺醒の警鐘を亂打し世の弊風を除かんとして、遂に群衆のために誤解せられ、死刑の宣告を受けた時「正義を信するものにとりて死果を又何する者ぞ、余は只正義に依りて眞生命を完うせんのみ」と叫んで毒を仰ぎ従容として死に就いたのも又強猛なる英國軍の侵入によつて彼フランス國の運命が只孤城オルレアンの存亡にかつた時突如少女ジャンダークが花の身を銀鞍白馬に托し彈丸飛ぶ交ふ戰場を馳驅し遂にフランスを滅亡の危急より救済したのも蓋し之皆ソクラテスやジャンダークの體内に漲る一大信念の力に外ならないのであります。又伊太利統一の美はしい歴史の上には快男子ガリバルデーの名もありませう。大政治家カプールの名もありませう。明主エムマヌエルの名もありませう。然しながら諸君もしその歴史上よりかの憂國の熱涙胸にあふれては口に筆に伊太利の自由を説き伊太利青年の士氣を振振し奇矯激越遂に祖國を追はれ異郷に流浪しあらゆる辛酸の間に尙「我は祖國を愛するのあまり遂に伊太利を追はれたり」と叫んだ愛國的熱血兒マチラーの名を引き去つたならば、伊太利建國史の花は果して奈邊に存するでせうか。

噫諸君救はれざる幾多の罪囚を救つた釋迦やキリストは之偉大なる信念の所有主でありました。

ヘエラの山中にありて只その道のためにあらゆる難行苦行に耐え、靜かに天の指導をまちしマホメットや

「吾は獨乙の一貧僧に過ぎない、然し我の嚴する所は萬世不朽の神の眞理である、吾を攻撃するならば、聖經の一句を以てせよ。」と叫んで、時の權勢鋭き羅馬法王に對抗したるユルチン、ルーテルも皆此の一大精神の人でありました。

ソクラテスやジャンダークや又マヂニーやマホメットや將又ルーテル等の名が幾千歳を経て猶ほ青史の上に不朽の耀きを印してをるのも之皆要するに、彼等の信念の力であると私は斷言するを憚らないのであります。

斯く論じて來りますると蓋し信念なき者は必ず亡ぶと言ひ得るではありませんか。

此處に於て私は燃ゆる信念は偉大なる力なりと絶叫するのであります。

然らば諸君、國民の間に何等欽仰すべき一大精神の確立するものなき現代日本の將來こそは、誠に悲しむべきものではありますまいか。

噫諸君、正に帝國の危機はせまりつゝあるといふ事を感じざるを得ないではありませんか、此危急を救ふべき一大信念の必要を感じざるを得ないではありませんか。

諸君、希臘は何故に倒れたのであるか、羅馬支那は何故に衰滅したのであるか、眞にその基づく所以を悟つたならば、而してこの浮薄なる我國の現代を見渡したならば、どうして我々は享樂の夢より醒めずに居られませうか、緊揮一番どうして奮起せずに居られませうか。

諸君は嘗て佛國の畫家シレーの畫いたあの「夕の祈」といふ名書を御覽になつた事があるでせう。薄ぐらく灰色すんだ夕空の彼方、はるか遠く立つてをるカトリックの教會、勾配の急な屋根を背景に見せ近く二人の

百姓夫婦が一日の勞作を終へて將に家路をたどらんとした時遙にひびきわたる夕の鐘の音をきいて、前にシヨベルとバスケットを置いて夫婦が手を合せ神に祈りをささげてをるといふあの平和に充ちくたビユクチャーを御覽になつた時、必ずや諸君の中には、彼等百姓夫婦の如く汚れなきその日その日を送つて清き生涯を送りたいと思ふた方があるでせう。

汚れなき日一日を送つて清き生涯を送るといふ事には私は敢て賛意を表するに躊躇しないのであります。然しながら諸君、考へて御覽なさい。

正に此の永遠の鬭争時代に際し帝國の將來を双肩に荷ふてをる所の我々青年が只自己一人超然として沈黙に孤立に清き一生を送るものとしたらばどうでせうか、誰か危機に臨める帝國の將來を維持するでせうか、誰が東洋平和保持といふ一大使命を果し得るでせうか。

こゝに於て私は吾々青年はどうしても強い信念に生きる愛國者たらねばならぬと力説するのであります。飽まで戦ふ人生の勇者たらねばならぬと叫ぶのであります。諸君、現代の日本が要求するところの者は決して最も進化せる科學的智識のみではありません、更に經濟的發展を期する富力のみではありません。

又恐るべき精銳なる武器のみでもありません、即ち此千萬人と雖も我行かんでふ一大精神に外ならぬのであります。蓋し對外的根本的武器は結局此大信念を描いて他にないからであります。

噫滿堂の諸君、醒めよと告ぐる曉の鐘は殷々として響いて來るではありませんか。

正に我々の愛する祖國は第二の維新時代に遭遇しつゝあります。此時にあたつて新日本の建設帝國使命の遂行といふ遠大なる理想を胸に持してをる所の吾々青年は正に自由の眞意義を輪廓とし眞我の覺醒を其豊富

なる内容とすると共に元祿時代の快男兒天野屋利兵衛が多くの捕手を前にし従容として「天野屋利兵衛は男
「御座る」と叫んだあの千萬人と雖も恐れざるあの一大精神を胸に抱いて共に手に手を執つてこの貴き使命
を果さんがために、聖なる力を捧げやうではありませんか。永遠の闘争時代に際し永久に勝利者の得意を歎
美しやうではありませんか。

南歐の一詩人ロングフェローはかく歌いました。「人体に於て最も美はしいものは弓を満月の如く引き絞
つた姿である」と誠にエネルギーにみち／＼た而して燃ゆる信念の宿つてをる者はど美はしくも又強い者は
ないと信ずるのではありませんか。

私も此言葉を借りて現代青年の間に磅礴せる新しき意氣と確固たる一大精神の美しさは實に此心ゆくまで
グツと引き絞られた弓の姿にありたいと叫ぶのであります。

本日私が相馬中學辯論部の一人として鐵路廿有餘里の此地に参り、知事閣下並びに諸名士諸賢の前にみぐ
るしき此身を現して臆面もなく此光榮ある演壇を汚した所以のものは要するに「燃ゆる信念は偉大なる力な
り信念なきものは必ず亡ぶ」といふ溢れんばかりの心の聲を披瀝せんがために外ならないのであります。

(完)